

マイブーム文化学

# Culture Now

## 中国を知ると、ヨーロッパも日本も見えてくる?

文化学部 国際文化学科  
小林 武 教授

私の研究は、19世紀から20世紀の中国思想です。この時代は、ヨーロッパの影響で、中国固有の伝統的な価値観が大きく転換し始めた時期です。たとえばヨーロッパ列強により近代的な法律が押し付けられ、法の変革が余儀なくされました。それまでの中国は律令体制で、儒教の考えのもとに社会が成り立っていました。父親が絶対的な権力を持っており、子は父に従い、家庭ではしつけとしての体罰も認められていました。当然のように結婚も、父親が決めていました。個人の人権を尊重する新たな西欧近代思想が紹介され、子の意思で自由な生き方ができるようになったのです。こうした中国の近代化には、ヨーロッパだけでなく、日本も大きく影響しています。



日清戦争で敗れた中国は、日本の明治維新を手本に、日本を通じて近代化しようと考えたからです。このように昔も今も中国を見ると、ヨーロッパはもちろん、日本も知ることができ、世界が見えてくるのです。

授業で特に興味深かったのが、漢字についてです。かつて中国から日本へ多くのものが伝承されました。そのひとつが漢字で、日本人は日本の文化に合った独自の漢字の使い方を発展させました。例えば、音読みと訓読みです。音読みは中国語の発音に準じた読み方です。一方でもとの大和言葉も踏襲し、日本人本来の感情も表現できるのが、訓読み。この発明は、まさに日本人の知恵です。漢文を使う男性社会において、女性が和文を使ったのは、こうした漢字の発展があったからこそ。中国では生まれなかった『源氏物語』や『枕草子』といった優れた女性文学が日本では誕生しました。ちなみに意外だったのは、漢字と同様に、蕎麦も中国から伝わったもの

だということです。もともとは団子のような形態で食されていたのが、日本のうどん文化と上手く融合し、現在の細く長いスタイルになったそうです。蕎麦や漢字を見ても、日本人はアレンジするのが上手な国民だと思えます。

## 日本人は

文化学部 国際文化学科 4年  
沼田 哲朗さん

## アレンジ上手?



## 三匹の子豚は、国によってストーリーが違う?

文化学部 国際文化学科 藤倉 恵子 教授

フランスをはじめ世界の伝承童話を研究しています。同じタイトルでも国によってストーリーが異なります。例えば『三匹の子豚』。イギリス民話では、お母さんが「食べていけないので」と、3匹の子豚を社会へ送り出し、3匹がそれぞれ家を建て、自立の物語となっています。一方、フランスでは、自分たちが謝肉祭のご馳走になるとアヒルが嗅ぎ付けたことから、豚をはじめ家畜たちが森へ逃げ出します。ところで、ユニークなのは、イギリス民話では、オオカミが3匹目の豚を、「うまいカブ畑を知っているから収穫に行こう」とおびき出そうとすること。なぜ、カブなのか? 実は、イギリス民話はフランスの民話を下敷きに19世紀に成立した話なのですが、19世紀イギリス農業革命での輪作農法の象徴



がカブなのです。各国の時代や社会を読み解くヒントがあふれ、奥深く面白く伝承童話の世界へ、あなたも足を踏み入れてみませんか。

## 人気童話と昔話・神話には、共通点がある?

文化学部 国際文化学科 3年  
中西 紅葉さん

私は多様な視点から児童文学を読むことに興味があります。例えば、人気童話のひとつである『エルマーのぼうけん』。「動物の島」に竜の子どもが捕らわれていると猫から聞いた少年が、救出に向かう冒険物語です。少年は、島でライオンやトラなどの凶暴な動物に襲われそうになる度に、リュックの中に詰め込んだ櫛やチューインガム、歯ブラシなど日常のモノを駆使して危機を切り抜けます。このようなモノを使った逃走方法は、

例えば日本神話において、イザナギノミコトが投げつけた櫛などが魔力で変身し、追跡してきた黄泉の亡者たちを阻んだ、という伝承のモチーフのひとつと見なせます。ただ、少年が魔法の世界にいながら、モノを現実の消耗品としてのみ利用していることが、この物語の魅力です。児童文学を通して物語の構造に踏み込むことが、思考を深めることにも繋がっていくように感じます。

